

テーマセッション わが国の ESG 投資の現状と課題

司会 三和裕美子(明治大学)

【セッション要旨】

近年、わが国においても SDGs(Sustainable Development Goals、「持続可能な開発目標」)が新たな潮流となっており、ESG(環境・社会・ガバナンス)投資への関心も高まっている。2006年に国連のPRI(責任投資原則)が公表され、機関投資家のESG投資は企業と社会の長期的成長を目指すメインストリームへと変化してきた。それ以前のSRI(Socially Responsible Investment、社会的責任投資)が宗教的、倫理的な要素が強かったのに対して、ESG投資は財務情報とCSR報告書等で開示されている非財務情報に基づいて投資を行いリターンの向上を目指すことに重点が置かれている。

2000年代に入り、欧州各国においては、企業や年金運用に関して、財務情報と同様に倫理・環境・社会に関する情報開示を行うことや、投資に際してこれらの事項をどの程度配慮したかを開示することを義務付けている。こうした変化の背景には、株式会社が拡大してきた20世紀、そして巨大な金融資本や投資家が企業活動に大きな影響を及ぼすようになった20世紀後半を経て、地球環境や企業の短期的経営などの問題が顕著になってきたことがある。

わが国のGPIF(Government Pension Investment Fund)、年金積立金管理運用独立行政法人も2015年にPRIに署名し、ESGインデックスを採用している。ESGの要素に配慮した投資は長期的にリスク調整後のリターンを改善する効果があると期待できることから、年金基金および資産運用会社にとって今日的な重要なテーマとなっている。

本セッションはこのような事象を背景とし、①年金スポンサー、②資産運用会社、それぞれの視点からのESG投資の現状と課題、さらに欧米のESG投資から学ぶべき点について議論する。

【パネリスト】

1. 塩村賢史(年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF) 投資戦略部 投資戦略課
企画役 シニアストラテジスト/シニア ESG アナリスト 市場運用部 スチュワードシップ推進課 企画役)
(基調講演)「GPIFのESG投資について」
2. 菊池勝也(東京海上アセットマネジメント株式会社、責任投資部 シニアアナリスト ESGスペシャリスト)
「資産運用会社からみたESG投資」
3. 水口剛(高崎経済大学)
「欧米のESG投資の現状—日本への示唆—」